

令和5年度宮城県検証改善委員会報告書

令和5年度のテーマ

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて！

全国学力・学習状況調査の結果

学習指導要領の基本方針、「育成を目指す資質・能力の明確化」を受けての授業づくりを！

学校改善

子供理解
学級経営
学校経営

授業改善

国語科の授業
算数・数学科の授業
英語科の授業

index

子供の学びを支援する5つの提言 本紙に関わる URL 等 1

学校改善・授業改善

子供の姿を見取り、子供から信頼されることが大切です 3

伝え合い、学び合う教員文化は、授業改善の土台です 4

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実 5

平成31年度調査から令和5年度までの調査結果から見える児童生徒の実態〈算数・数学〉 7

国語

全国学力・学習状況調査の結果（小・中学校国語） 9

小学校「読むこと」の授業づくり 11

小学校「書くこと」の授業づくり 13

中学校「書くこと」の授業づくり 15

算数・数学

全国学力・学習状況調査の結果（小学校算数・中学校数学） 17

小学校「図形」の授業づくり 19

小学校「数と計算」の授業づくり 21

中学校「データの活用」の授業づくり 23

英語（外国語活動、外国語）

全国学力・学習状況調査の結果（中学校英語） 25

外国語教育における「小中の連携」の重要性 26

中学校「書くこと」の授業づくり 29

単元構成・学習指導案

単元構想・略案作成（国語科） 31

単元構成・略案作成（算数・数学科） 34

【提言】これから求められる算数・数学の授業づくり PartⅢ

宮城教育大学 大学院教育学研究科 准教授 市川 啓 37

子供の学びを支援する5つの提言

～自立した学習者の育成を目指して～

1 子供の声を受け止め、適切な支援をすることで、 安全・安心に学べる環境をつくりましょう

安全・安心な居場所は、子供が充実した生活を送るための土台となります。子供の声を受け止め、個に応じた適切な支援をすることで、教師と子供、子供同士の良好な人間関係づくりに努めるなど、安全・安心に学べる環境をつくりましょう。

2 子供をほめること、認めることで、やり抜く力を育てましょう

子供をほめるときには、子供が努力したことを具体的にほめることが大切です。努力を認めることで、更なる意欲を引き出し、難しいことにも挑戦しようとする気持ちや、目標に向かって努力し続ける気持ちを育てましょう。

3 子供が様々な学び方を知り、主体的に学習ができるように 支援することで、学びに向かう力を育てましょう

子供が様々な学び方を知り、経験することで、見通しを持って学習に取り組んだり、学びを自己調整したりすることができるようになります。子供自身が学びの計画を立て、自由な発想でICTを活用できるようにするなど、自立した学習者として学び続けられるように支援し、学びに向かう力を育てましょう。

4 自分の考えを発表したり、 交流したりする活動を充実させることで、 深い学びにつなげましょう

自分の考えを発表したり、交流したりすることで、一人一人のよい点や可能性が活かされ、異なる考え方が組み合わさり、子供の学びが豊かになります。子供が習得・活用・探究という学びの過程で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせ、深い学びができるように支援しましょう。

5 家庭学習の質的向上を図るとともに、 読書の時間を増やす働き掛けをしましょう

起床時刻、学習を始める時刻、就寝時刻を定めるなど、生活リズムを整えながら家庭学習の時間を確保するとともに、子供自身が課題を設定したり、ICTを効果的に活用したりするなど、家庭学習の質を高められるように働き掛けましょう。また、家庭や学校で読書の時間を設定するなど、子供が読書に親しむ機会の充実を図りましょう。

宮城県教育委員会 令和5年3月

本紙・全国学力・学習状況調査に関わる Web サイト

本紙

<https://www.pref.miyagi.jp/site/sokyos/kensyokaizen.html>



本紙の解説動画

https://www.pref.miyagi.jp/site/gikyou-gak/ruw6mwu7r4gaku_zk.html 仮

本紙の授業づくりについて、具体的な授業場面で説明しています。
※動画は、令和6年1月中旬公開予定



令和5年度全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた 学習指導の改善・充実に向けた説明会（国立教育政策研究所）

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/setsumeikai/r05setsumeikai/index.html>



宮城県 個別最適な学びに関するモデル事業

https://www.pref.miyagi.jp/site/gikyou-gak/kobetsu_saiteki.html



教科指導に関わる Web サイト

宮城県総合教育センターM ナビ教育データライブラリ

（各教科、校種の学習指導案等が検索できます）

<https://www.pref.miyagi.jp/site/sokyos/mnavi-detalib.html>



宮城県総合教育センター「みやぎ理科支援ナビ」

<https://www.edu-c.pref.miyagi.jp/midori/science/?ver=2023>



子供との信頼のパイプを太くしていきましょう！

児童生徒質問紙調査より（数値は「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合）

質問番号	質問事項	宮城	全国	差
(小10)	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる	64.5	68.5	-4.0
(中10)		61.1	66.4	-5.3

■子供にとって「何でも相談できる・信頼できる先生」の存在は、授業のみならず学校生活全般を支えます。

- ・困りごとや不安を「何とかできそうだ」と、子供自身が思えるような言葉掛けが大切です。
- ・先生から大切にされているという実感や安心感が、子供の「主体性」の基になります。
- ・「子供の考えを大切にする先生の姿」を子供はまねします。
- ・子供同士が、互いの存在を尊重することで「対話」が深まります。

〈子供との信頼のパイプを太くする先生の姿・チェックリスト〉

良い授業のイメージを持っている。

→「そうか！分かったぞ！！」「ちょっと待って、もう少しできそう」「どっちだ？どっちとも言えそうだ」など、良い授業には「分かる」「考えがいのある問題に取り組む」「対立意見を前にして葛藤する」といった場面があります。学ぶ喜びを味わわせてくれる先生、「必ずできるよ」と勇気付け励ましてくれる先生を子供は信頼し尊敬します。授業は子供との信頼関係を結ぶ生命線です。

子供を褒めるときに、結果そのものより、子供が工夫したことやそれまでの過程に着目している。

→教師が見取るべきは、結果に至るまでの子供の思考過程や、工夫の跡です。子供が成功の予感を抱けるような目標を持たせたり、考える価値のある選択場面に子供を立てて自己決定させたりといった場面を意図的に作りましょう。自分なりの工夫や、一生懸命考えたことを先生に認めてもらうことは、子供にとって励みになり、先生を信頼するきっかけになります。

子供の様子を見取り、丁寧な言葉遣いをしている。

→「最近忘れ物が多い」「朝から表情がさえない」「汚れた服を着ている」など、授業や日常の見取りから「何かあったのかな」と気付くことがあります。また、「悩んでいることがあれば、いつでも話していいからね」という先生の言葉を待っている子供もいます。子供と話す際は、丁寧で穏やかな言葉遣いをしましょう。子供の安心感につながります。

子供との約束を守っている。

→「(授業で) 今度、□□するからね」・「(子供の問いかけに対して) ああ、いいよ」—こういうやり取りも、子供にとっては〈先生との約束〉です。日常の中で、気付かずに子供とたくさんの約束をしていませんか？子供は先生との約束を覚えているものです。小さな約束であっても、子供と交わした約束は大切にしましょう。もし約束どおりできないときは、「今日はできなかったけど、明日の〇〇の時間でやろうね」などと、代わりとなる提案をすることが大切です。

子供がどのようなことを大切にしているか、把握している。

→子供には、大切にしている「自分の世界」があります。それは趣味や家族、夢、憧れ、時に空想など様々です。自分が大切にしている世界を、先生も大切にしてくれるのは、子供にとってうれしいことです。授業中の発言、日常の会話などから、子供がどのようなことを大切にしているかキャッチすることができます。

教員同士の会話は大切な研修の場！

児童生徒質問紙・学校質問紙調査より（全国との比較において、かい離が大きかった項目）

上段：小学校 下段：中学校

質問番号	質問事項	宮城	全国	差
(14)	教員が 授業で問題を抱えている場合 、率先してそのこと	36.2	38.0	-1.8
	について話し合うことを行いましたか	23.8	26.4	-2.6
(15)	教員が 学級の問題を抱えている場合 、ともに問題解決に	51.5	55.8	-4.3
	当たることを行いましたか	36.9	43.5	-6.6

教員としての力を高めるために・・・

①「教える授業」中心から、「**児童生徒が自ら学ぶ授業**」への授業改善

- 教師はともすると話をしすぎる傾向があります。児童生徒が中心となる授業づくりに取り組みましょう。

②教員の「**授業の技量**」を高めるための研修会・研究会への参加

- 学校全体で校内研究を充実させるために校内研修会の回数確保し、積極的に公開研究会や研修会に参加しましょう。

③教員同士が自分の学級や授業について「**話す機会・時間**」の確保

- 校内での授業の参観や提供を日頃から行い、互いに学び合う機会を確保しましょう。

互いに学び合える環境づくりに努めましょう

先輩教員から働き掛けてみませんか！

- ・ 授業について**話し合える職場**の雰囲気醸成
- ・ 授業を互いに見合える**環境づくり**
- ・ 自らの授業改善と**学級経営及び授業技術の継承**
- ・ 校務の確実な遂行と**業務改善**

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の 一体的な充実

個別最適な学びは、「指導の個別化」と「学習の個性化」から構成されています

(教師視点では「個に応じた指導」)

指導の個別化とは

子供が一定の目標に向かって、自分の学力や特性に合わせて、学習内容や学び方を選択し、基礎・基本となる知識や学び方を身に付ける学び。

そのために教師は

支援が必要な子供に、より重点的な指導を行ったり子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行ったりすることが大切です。

学習の個性化とは

子供が自分の興味・関心等に応じた異なる目標に向けて、自ら学習を発展させ、探究していく学び。

そのために教師は

子供一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することが大切です。

例えば

中学校第1学年 技術・家庭

「生活に生かすものづくりをしよう」

○一定の目標

「材料の加工方法、工具の使い方などについての知識や技能の習得」

○学習課題を選択

- ・机を整理したいからプリント整理箱を作ろう
- ・家族のためにお風呂の椅子を作ろう
- ・おばあちゃんが使いやすいマガジンラックを作ろう 等

○学び方を選択

- ・教科書を見て、作り方を考えよう
- ・インターネットで作り方を調べよう
- ・のこぎりで真っすぐに切るコツを動画で調べよう 等

単元内自由進度学習

①ガイダンス（子供が単元全体の目標や流れなどの見通しを持つ段階）

教師は、学習の始めに単元の目標、時間数、標準的な学習の流れ、活用できる教材や機会を提示します。

②計画（教師が用意する学習の手引きを参考に、自分で計画を立てる段階）

子供は、興味や学習方法に応じた学びをどう進めるか計画を立てます。

③追究（問いに対し追究を進める段階）

子供たちは個々に学習を進めます。

④まとめ（学習内容と学習方法を振り返る段階）

よりよい学びにするためには、協働的な学びが大切です

個別最適な学びで得た、
知識・技能
思考力・判断力・表現力等

多様な他者との学び
クラスメイト、異学年・他校の子供
地域の人々、専門家等

異なる考え方が組み合わせさり
よりよい学びを生み出す

同じ目標のもと、クラスメイト、異学年や他校の子供、地域の人々、専門家などの幅広い世代の人々と対話しながら、協働で作上げる経験そのものが学びにつながります。

個別最適な学びと協働的な学びを行うためには、ICTを有効に使いましょう

情報端末を活用して情報収集、
データ処理、レポート作成等

アプリを活用して、情報を共有
しながら共同で作成・編集

スタディ・ログを活用した学習

自分の進度に合わせて、
AIドリルで学習

グループチャットで自分の考え
を書き込み、友達の考えと比較

自分に最適なアプリで学習
(アプリは子供が選択)

等

具体的な指導例

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を往還しながら進めていきます

中学校 第1学年 国語「矛盾」
単元の指導計画（3時間扱い）

第1時

- ・本文を読んで漢文調の文体に親しみ、簡単な訓読の仕方を知る。
【一斉】
- ・矛盾の意味を理解するとともに、他の故事成語とその意味を知る。
【指導の個別化】

一斉で学習の
流れを確認する



第2時

- ・自分の体験と合致するような故事成語を選び、起承転結の構成で紹介文を書く。【学習の個性化】

個別最適な学び
それぞれ異なる方法
（情報端末、辞書等）
で課題に取り組む



第3時

- ・前時に書いた紹介文を友達と共有し、良さや改善点を伝え合う。
【協働的な学び】
- ・自分の紹介文を整理し、学習の振り返りを行う。
【学習の個性化】

協働的な学び
友達と交流しながら、
解決に向かう



ポイント 単元における個別最適な学びと協働的な学びの具体化

個別最適な学び		協働的な学び
<p>〈指導の個別化〉</p> <p>教科書、情報端末、副教材等、自ら選んだ方法で故事成語について調べたり、故事と自分が体験した出来事を結び付けた紹介文を書いたりする。</p>	<p>〈学習の個性化〉</p> <p>故事成語と自分の体験とを結び付けながら、故事成語について興味・関心を深め、広げる。</p>	<p>〈協働的な学び〉</p> <p>互いの体験談と故事成語の結び付きについて、文章の起承転結での構成等の観点で助言し合い、自分の文章の良い点や改善すべき点に気付く。</p>

1時間単位での個別最適な学びと協働的な学びの例 小学校 第1学年 算数「繰り下がりの引き算」



情報端末に直接、考えを書く



ブロックを使って考え、情報共有するためカメラ機能を使う



共有機能を使って、友達の考えを見たり、比較したりする



疑問に思ったことを友達と考える



集団で考えを共有

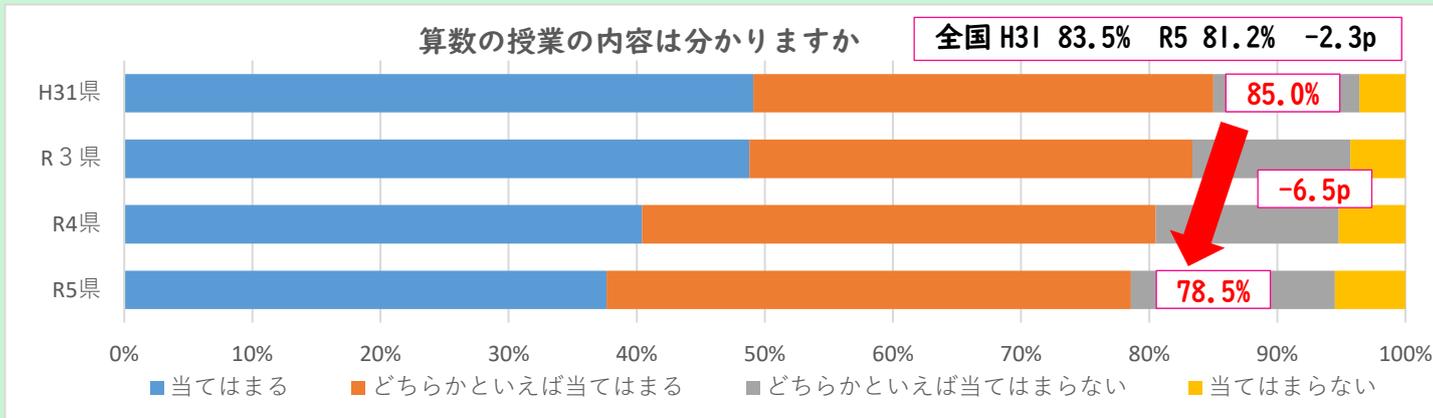
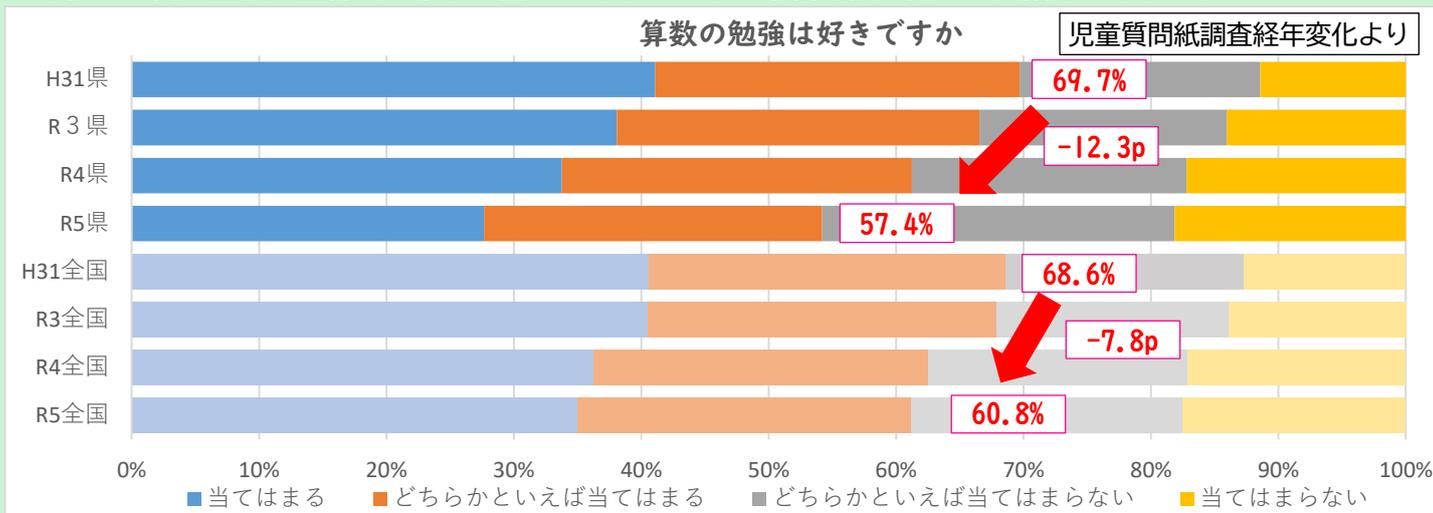
ポイント 個別最適な学びと協働的な学びの学習活動に応じたICTの活用

・デジタルノート ・カメラ機能 ・共有機能 ・スライド機能 ・共同編集機能

平成31年度から令和5年度までの調査結果から見える児童生徒の実態 <算数・数学>

児童生徒の学習意欲は？

算数、または担当している教科について、児童生徒の何%が肯定的（好き、どちらかというとき好き）に捉えているのでしょうか。算数を例に県全体で見ると、平成31年度調査では、「算数の勉強は好きですか」の質問に対して、肯定的に捉えている児童は69.7%でしたが、年々減少し、今年度調査では、57.4%と最も低くなりました。全国も同様の傾向がありますが、県の方が顕著に低くなっています。また、「算数の授業の内容は分かりますか」の質問でも同様の傾向が見られます。学級の児童生徒や担当している教科の児童生徒の実態を把握することで、一人でも多くの児童生徒が主体的に学びに向かえるようにし、学習意欲の向上を目指しましょう。



児童生徒の学習意欲を向上させるためには

- ペア・トリオ・グループ学習等の**学習形態を工夫**しましょう。
→否定的（「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」）な児童生徒は、その教科を苦手としている傾向があります。自分の考えや意見が言えず、一方的に聞くだけだったらどのような気持ちになるのでしょうか。また、得意としている児童生徒は、答えを教えるだけになっていないのでしょうか。苦手な児童生徒には、分からないことを友達に伝え、得意な児童生徒には、理由や考え方を図やグラフ等を使いながら分かりやすく伝えるようにし、学び合う形態を工夫しましょう。
 - 児童生徒の**得意な領域を増や**していきましょう。
→計算が苦手な児童生徒でも、図形を得意とする場合もあります。できないことに目を向けるだけでなく、得意なことを更に伸ばし、苦手な領域につなげられるようにしましょう。また、得意なことは更に好きにさせるように、できたことや努力したことなど褒めていきましょう。
- ※ 手立てや支援等はすぐに効果として表れないこともあります。**長い期間を掛けて、根気強く指導**していきましょう。

平成31年度からの算数・数学の経年変化から

下の表は、平成31年度から令和5年度までの算数・数学の調査結果を、正答率、領域別、観点別、問題形式別にまとめたものです。囲みは、特に全国とかい離が大きいものです。なお、領域名や観点名が異なるのは、学習指導要領が改訂となったためです。
※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症予防対策として、調査を中止。

1 小学校算数 全国とかい離

年度	正答率%		領域別						観点別				問題形式別											
	県	全国とかい離	数と計算		図形		測定		変化と関係		データの活用		知識・技能		思考・判断・表現		選択式		短答式		記述式			
令和5	58	-4.5	62.3	-5.0	43.4	-4.8			66.4	-4.5	62.1	-3.4	63.4	-3.8	50.7	-5.8			52.9	-4.8	71.3	-3.4	40.4	-6.9
令和4	58	-5.2	65.6	-4.2	58.5	-5.5			46.9	-4.4	62.7	-6.0	64.1	-4.1	51.0	-5.7			47.5	-4.3	72.7	-3.8	53.3	-6.9
令和3	66	-4.2	59.0	-4.1	51.2	-6.7	72.0	-2.8	71.5	-4.4	72.3	-3.7	69.7	-4.4	60.8	-4.3			72.1	-3.9	71.1	-4.7	48.4	-4.6

年度	正答率%		領域別						観点別				問題形式別											
	県	全国とかい離	数と計算		図形		量と測定		数量関係		数学的な考え方		技能		知識・理解		選択式		短答式		記述式			
平成31	64	-2.6	61.2	-2.0	76.0	-0.7	47.3	-5.6	65.5	-2.8			58.5	-3.7	72.7	-0.9	68.7	-1.4	74.1	-1.6	71.2	-1.6	42.6	-4.8

小学校では、次のことが課題と言えます。

領域別では、図形領域に課題がある。また、観点別では、思考・判断・表現に課題があり、問題形式別では記述式の問題形式に課題がある。

2 中学校数学 全国とかい離

年度	正答率%		領域別						観点別				問題形式別							
	県	全国とかい離	数と計算		図形		関数		データの活用		知識・技能		思考・判断・表現		選択式		短答式		記述式	
令和5	44	-7.0	56.4	-6.6	27.6	-5.6	45.0	-6.2	39.5	-9.0	49.0	-6.7	34.7	-6.9	38.5	-6.8	55.9	-6.7	34.7	-6.9
令和4	45	-6.4	46.8	-10.6	39.5	4.1	37.2	-6.4	53.8	-3.3	52.4	-7.5	30.7	-5.5	47.9	-4.7	56.0	-9.7	30.7	-5.5

年度	正答率%		領域別						観点別				問題形式別									
	県	全国とかい離	数と計算		図形		関数		資料の活用		数学的な考え方		技能		知識・理解		選択式		短答式		記述式	
令和3	52	-5.2	57.9	-7.0	46.2	-5.2	54.0	-2.4	49.5	-4.3	36.3	-4.8	69.3	-8.4	62.1	-3.5	47.3	-5.1	65.8	-4.7	29.5	-5.5
平成31	55	-4.8	59.0	-4.8	68.7	-3.7	33.1	-7.7	51.0	-5.3	47.1	-3.9	54.3	-9.6	66.9	-4.4	57.2	-3.1	59.4	-7.2	43.0	-4.1

中学校では、次のことが課題と言えます。

領域別では、4年連続、数と計算領域が全国とかい離が大きい。また、観点別では、「知識・技能」「思考・判断・表現」とも課題であり、問題形式別では短答式のかい離が大きい。

さらに、問題別で調べてみると、小・中学校とも、算数・数学用語や決まり、性質をしっかりと理解していない児童生徒が多いことが分かりました。例えば、小学校では、三角形の「底辺」と「高さ」や分配法則などです。中学校では、素因数分解や自然数を求める問題などです。また、求め方を記述する問題は、正答率が低く、無解答率が高い傾向にあります。

そこで小学校低学年から、求め方の方法をノートに書かせ、書くことに慣れさせる必要があります。また、学習した算数・数学用語や決まり、性質などは繰り返して指導していくことも重要です。「一度教えたから児童生徒は理解している」という考えではなく、「定着が難しいから繰り返して指導が必要」という考えで、指導していきましょう。

ノートに自分の考えを書けない子供には、まず、友達の考えをノートに書き残させ、書くことに慣れさせることが大切です。また、下のノートのように、①②③と順序立てて書かせることで数学的な思考を高めることにつながります。

一のへやだけではとれないとさのさくせんをかきえよう。

13-9

①入 ②10-9=1
10 3 ③3+1=4

①13を10と3に分ける。
②10から9をとって1。
③1と3をたして4。

12-9=3
①入 ②10-9=1
10 2 ③1+2=3

さくらんぼさくせん
10をつくる

「小学校5年四角形の内角の和」
数学用語「対角線」「三角形の和（三つの和）」という言葉を使っている

∠Dを頂点と考えると...
DからBにかけて1本の対角線が引けるので、2つの三角形ができて、1つの三角形の和は180°だから、180°×2=360° 四角形の和は360°じゃないか。

「小学校1年繰り下がり引き算」 説明を式と言葉を関連させながら書いている